



東中だより

No. 10 令和8年 1月30日(金) 余市町立東中学校 発行

校訓…「進取」「利他」

学校教育目標

- 自律…自ら考え判断し行動する
- 尊重…多様性を受け入れ対話し解決する
- 創造…豊かな発想で新たな価値を生み出す

高校入試への取組から…

校長 明村 秀之

1月後半は、今季最強・最長寒波が襲来し、各地に爪痕を残しました。札幌市や小樽市の大雪は連日報道され、通勤・通学はもちろん、日常の買い物、物流に支障が出ていました。余市町においても積雪が増え、歩いて、車での移動も、大変な状況となりました。一気に高くなった雪山のため、見通しも悪く、とても危険な状況です。運転者としても歩行者としても安全意識をいつも以上に高くして、時間と心にゆとりをいもたなければと、自分自身に言い聞かせている毎日です。

さて、20日間の冬季休業が終了し、3学期がスタートして2週間が過ぎました。

学校では、3年生が高校入試に向け、熱心に取組を勧めています。現在は、推薦入試に向けた面接試験の準備が佳境を迎えています。「志望動機」「高校生活で力を入れたいこと」など、過去の質問を参考にしながら回答を整理し、どんな質問にも対応できるよう努力しているところです。

面接練習は、3学年担任団を中心に行い、その成果を発揮する場として、教頭、校長と模擬面接を行います。すでに校長との最終模擬面接を終えた生徒もいますが、一人一人にその成長を感じ、胸が熱くなる場面がたくさんあります。

ある生徒は、自身の将来について質問を受けた時に、両親の仕事について話していました。「父親が農業を営んでおり、その大変さや苦勞を見えています。朝早くから夜遅くまで働いています。今は畑に雪がありますが、りんごの木の剪定など、寒いなか朝から仕事をしています。そんな父をぼくは尊敬しています。将来、自分も農業の仕事をするを考えています。」と堂々と語ってくれました。思わず、涙があふれてきました。「親の背中を見て子は育つ」とい

うことわざがありますが、まさにそれを思い起こさせる模擬面接でした。

別の生徒は、質問内容にきちっと整体し丁寧に回答している姿が印象的でした。そして、誠実な態度で最後まで受け答えをしていました。終わった後、「すばらしい受け答えだね、小学校から〇〇くんを知っている先生としては、すごい成長を感じてうれしいです。感激です。自信をもって試験に臨んでください。」と伝えたところ、「ありがとうございます。校長先生、ぼくがこういう風にちゃんとできたのは、先生方がいろいろ教えてくれたからです。感謝しているんです。ほんとに。」と話してくれたのです。そういうことを思えるように、伝えられるように彼が成長していることに感動しました。

私ごとですが、黒川小学校から東中学校へ赴任し、小学校時代の姿から義務教育9年間を終える姿まで見て、その成長を実感できることは何よりもうれしい限りです。あまりにもうれしくて小学校時代の担任やかかわった教職員に連絡してしまいました。」

2月に入ると推薦入試、私立高校入試があり、3月4日(水)は公立高校学力検査日となります。これからが追い込みの時期となります。インフルエンザやコロナウイルス感染症が流行しています。準備万端、体調万全で試験当日を迎えられることを願っています。

令和8年の丙午の年は、炎のような情熱と勢いのある年となるので、これまで迷っていたことにチャレンジすると追い風が吹き、物事がよい方向に動くと言われていました。3月には、3年生全員にすてきな桜が咲き、希望あふれる新たな旅立ちが、1・2年生も進級の自覚が花開き、期待感一杯に新たなスタートが切れるような気がしています。